

## 報告書の取りまとめに向けて（案）

---

# ■ 報告書の作成イメージ①

多摩市(現行の総合戦略体系)

○将来都市像：つながり 支え 認め合  
い いきいきとかがやけるまち 多摩

○重点テーマ③：活力・にぎわいの創出

〈基本目標〉

- ①働くを応援し、まちの活力を高める
- ②まちの魅力を高め、関わる人を増やす
- ③若い世代が希望を持って、結婚・出産・子育てができる環境をつくる

〈基本目標達成に向けた推進力〉  
新たな技術と多様な人材の活用

国

○目指す姿：新しい日本・楽しい日本  
一人ひとりが多様な幸せ  
(Well-Being) を実現できるまち

生活不安の解消  
→新たな挑戦、  
自己実現

○「強い」経済 ・「豊かな」生活環境

①安心して働き、暮らせる

地方の生活環境の創生

⇒「若者・女性」への着目、人口減少が進む中でも社会を維持

②付加価値創出型の新しい地方経済の創生

⇒ 人口減少局面でも稼げる地方を創る

③人や企業の地方分散

⇒ 関係人口を活かした都市と地方の支え合い

④新時代のインフラ整備、

AI・デジタルなどの新技術の活用

⇒ 生成AI活用や、半導体産業・データセンターへの地方分散

⑤広域リージョン連携

⇒ 自治体の区域を超え経済の観点でも官民連携のプロジェクト

多摩市(報告案の作成イメージ)

○将来都市像：つながり 支え 認め合  
い いきいきとかがやけるまち 多摩

○重点テーマ③：活力・にぎわいの創出  
〈基本目標〉

①-----  
②-----

地方創生2.0の視点

③-----

関係人口

若者・女性

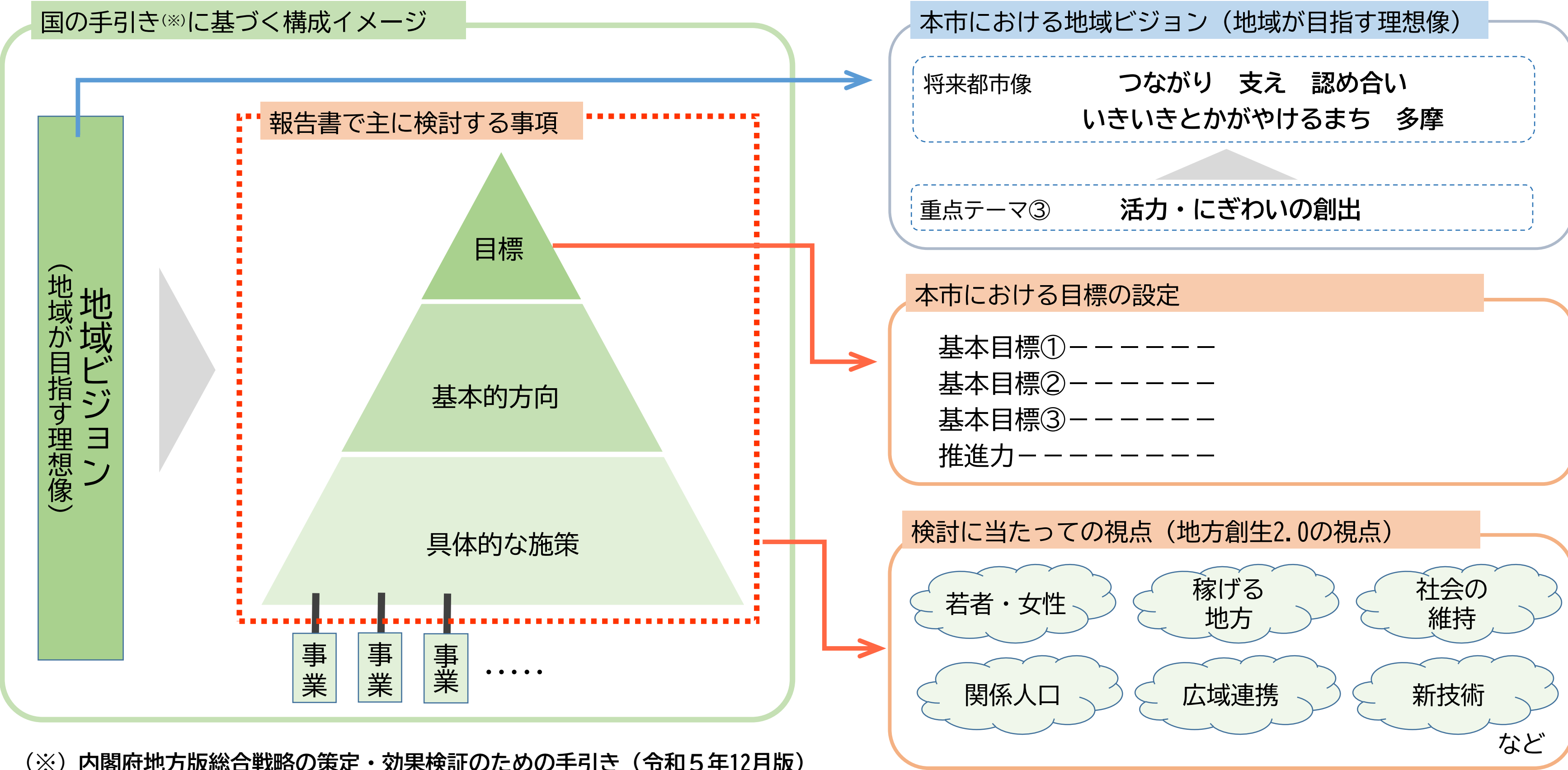
稼げる  
地方

社会の  
維持

広域連携

新技術

■ 報告書の作成イメージ②



(※) 内閣府地方版総合戦略の策定・効果検証のための手引き (令和5年12月版)

## ■（報告書作成に当たっての視点①）本市を取り巻く環境変化・課題、取組の背景について

- 本市では、大型マンション竣工に伴う転入増などでこの10年間の人口は微増・横ばい傾向で推移している。  
一方、平均初婚年齢の高さ等から合計特殊出生率が東京都平均を下回るなど少子化が進行し、今後の人口減少が見込まれている。特にニュータウン地域では特定の時期に多くの住民が入居した結果、住民の高齢化、コミュニティ機能の低下など様々な課題が生じている。
- 今後、人口減少社会に突入すると、地域の活力が低下し「市民の暮らしを支える生活基盤が弱くなる」だけでなく、「まちとしての活力とにぎわいを失うこと」で、更なる人口減少を招くという負のスパイラルに陥ることが懸念される。人口減少に伴う課題への対応を図るため、「まちの活力・にぎわいの創出」に取り組む必要がある。
- 取組を進める上では、行政だけでなく、市民、NPO、団体、事業者、大学など多様な主体とつながり、連携を深めることが必要である。時代・社会の変化に応じた仕組みづくり等を通じ、まちに変化を起こし、まちとしての活力・にぎわいを生み出すことが求められている。

## ■（報告書作成に当たっての視点②）多摩市の未来を描くブランドビジョンについて



- 本市では、市制施行50 周年(令和3年11月1日)を機に、ブランドビジョン「くらしに、いつもNEWを。」を発表した。
- このビジョンを説明するブランドステートメントでは、ニュータウン創生期から、日本の未来課題に挑戦してきた「フロンティア・スピリット」のまちと表現している。

### 〈ブランドステートメント〉

多摩市が誕生して、今年で 50 周年。 その最初の「NEW」が、1971 年に生まれた多摩ニュータウンでした。目指したのは、自然環境と都市機能の調和をかなえる、日本の新しい暮らし方。 以来、多摩市はずっと、フロンティア・スピリットを忘れずに、 都市のさまざまな問題に挑戦し、時代とともに進化し続けてきました。未来を担う都市交通網整備、団地の大型再生、リアルとオンラインによるさまざまな市民活動など 多摩市のチャレンジは大きく広がっています。そして、50 周年の節目となる今年、この「NEW」への思いを改めて胸に刻み、くらしの未来に向かって、さらに歩みを進めたいと考えています。「NEW」とは、都市やまちのさまざまな課題を、新しいアイデアと技術によって解決すること。「NEW」とは、ひとりひとりの「くらし」を、ひとりひとりの「らしく」に変えること。「NEW」とは、ニューノーマルの時代に合った、新しいくらしを提案すること。そして、「NEW」とは、温故知新、これまでの50 年で培ったまちの財産を活かすことで、新たに生まれるもの。これまでも、これからも、多摩市は、人々の笑顔を想像し、新しいくらしを創造していきます。

# ■基本目標① 方向性：「安心」「暮らし」「働く」

## ■基本的方向

## ■具体的な施策

(1)  
⋮

## 各委員からのご意見を踏まえたキーワード

### ① 働きやすい環境づくり

- アンコンシャス・バイアスの解消(アイスランドと連携した取組、ジェンダー推進、父親の育児参加企画)
- 多様な働き方の推進(就業相談時の子どもの一時預かり、リモート・テレワーク環境整備:Wi-Fi付きワークスペースの拡充、副業の推進)

### ② 子育て・生活・居住支援

- 子育て環境の充実(子育て世代の交流の場づくり)
- 家事・介護の外部化(朝の子どもの居場所確保、買い物支援、エッセンシャルワーカーの確保)
- 住宅・交通施策(職住近接の取組、団地の仮住まい体験、空き家を活用した学生寮の整備、安心して通勤・通学できる環境整備)

### ③ 学びの機会の創出

- 大学(社会人講座)、企業(研修センター)連携によるリカレント教育・リスキリング支援、自習室の拡充、キャリア形成支援(キャリアコンサルタントによる支援) など



## ■基本目標② 方向性：「ビジネス」「イノベーション」

### ■基本的方向

### ■具体的な施策

(1)  
⋮

### 各委員からのご意見を踏まえたキーワード

#### ① 創業支援

→ 女性創業者への支援(セミナー、相談会)、空き店舗・古民家の活用、駅周辺をテストフィールドとして活用、団地内に創業支援チャレンジ街区の設置(事業所、工房として利用)、スタートアップ企業向けの施策

#### ② 事業者への支援・事業者との交流の場づくり

→ 中小企業、個人事業主向けの施策、懇談会(「女性が働きやすい企業賞」の創設、事業者のニーズを踏まえたまちづくりの推進、課題解決ネットワークの場づくり、女性雇用率・女性登用人数(率)の向上に向けた取組)

#### ③ 都市計画

→ エリアごとの機能の明確化(ニュータウンエリア、駅周辺エリア等)、駅前の都市機能(オフィス・商業等)の再編・集約、既存地域の区画整理・再開発、南多摩尾根幹線の整備(ロードサイドショップの出店、車利用者の拠点形成)、学校跡地の利活用

#### ④ 人材の確保・育成

→ 企業への出向・派遣、地元採用の推進、氷河期世代・高齢者・障がい者へのキャリア・就職支援、外国人の受入・共生の検討 など

## ■基本目標③ 方向性：「魅力をつくる・高める」「まちの財産を活かす」

### ■基本的方向

### ■具体的な施策

(1)  
：

### 各委員からのご意見を踏まえたキーワード

#### ① 魅力的な空間づくり、観光まちづくり

→ 夕方～夜間の賑わい創出、安心して歩ける空間づくり（四季を問わずイルミネーション）、若者が好む魅力的な店舗の誘致、駅前やロードサイドでキッチンカー・軽トラ市、エンタメ施設と周辺店舗の利用促進キャンペーン、外国人観光客向けの施策、周辺観光への導線づくり

#### ② 公共空間の活用、交通インフラの整備

→ 既存施設の活用・アップデート、公園の活性化、駅と尾根幹線道路の車利用拠点間のコミュニティバスの運行

#### ③ 地域ブランドの構築

→ 特産品づくり・ブランディング

#### ④ まちの魅力発信

→ 多様な媒体での魅力発信、魅力的な店舗のPR、特色ある取組のPR（教育、生物多様性）、多摩市若者会議の拡大 など



各委員からのご意見を踏まえたキーワード

- ① 市民・NPO・団体・事業者・大学等との連携強化
- ② 姉妹都市との職員交流
- ③ DX推進の取組                      など